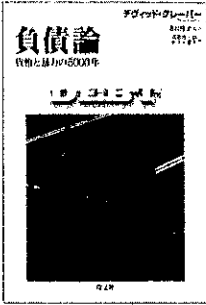


# 負債を通じた経済社会への警鐘 ホワイトカラーの生産性向上策

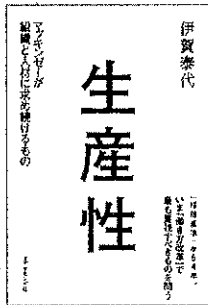
## 軽

量な本に慣れてしまった  
脳を引き締めましょう。  
全700ページの『負債  
論』。電車の中で毎日10ページ読  
み続ける努力を無としない、経済  
システムの基本を考えさせてくれ  
る好著です。

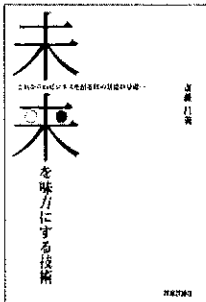
負債とは経済用語なのに著者は  
文化人類学者。そのあやは、例え  
ば奴隷売買の話に示されます。い  
わゆる奴隷は、どのように「調  
達」されたのか。武力と強権だけ  
で奪うのではなく、偽ギャンブル



「負債論  
貨幣と暴力の5000年」  
デヴィッド・グレーバー 著  
(以文社 6000円)



「生産性  
マッキンゼーが組織と  
人材に求め続けるもの」  
伊賀泰代 著  
(ダイヤモンド社 1600円)



「未来を味方にする技術  
これからのビジネスを創る  
ITの基礎の基礎」  
高藤昌義 著  
(技術評論社 1580円)

で負債を負わせて子や妻、そして  
自身を借金のかたにして連行す  
る。つまり「負債のやり取りを基  
本とするシステム」が、奴隷利用  
という政治的暴力と連動している。  
「年季奉公」もまた、同じ発想。  
負債の証明書が「貨幣」である  
と著者は言い、5000年の歴史  
をたどります。そこで見える負債  
と貨幣、政治的暴力の連関。金融  
機関の救済のための国による資本  
注入も結局は税金投入であり、「富  
める者を貧しき者に救わせる政治

選・評  
鈴木寛之  
八重洲ブックセンター事業開発部主任

的暴力」と論が広がります。  
『生産性』は、マッキンゼー出身  
者によるホワイトカラーの生産性  
向上についての施策提言。キーワ  
ードは「ストッププウオッチ」。も  
のづくりの現場では、一つの製品  
を作るのに秒単位の苦闘を繰り返  
しているのに、なぜホワイトカラ  
ーは仕事の見直しや改善をためら  
うのか。著者は「ストッププウオッ  
チで仕事を分解してみるべきだ」

と言います。「トップパフォーマンス  
の重用」「作業分解」「派遣活用で本  
当に仕事が減っているか」「育児は  
業務見直しの好機」などの具体論  
も示し、「ブルーカラー業務に対す  
るホワイトカラーの根拠なき優越  
感を正そう」と迫ります。  
『未来を味方にする技術』は、も  
るもるの先端ITについての説明  
は抑えつつ、大きな潮流の中での  
業務やビジネス発想の在り方など、  
つまり来るべきサイバーファイジカ  
ルシステムの中での思想の持ち方  
について解説しています。先端IT  
の価値をいかに認め、ビジネス  
にしていくか。理系よりも文系の  
人に読んでほしい一冊です。(談)